



<流山憲法集会>

5月17日(土)

北部公民館ホール

野田線江戸川台駅 西口下車徒歩10分

開場13:30 開演14:00

**「日本の平和憲法が
なくなる？」**

お話し

金子 勝さん

(立正大学教授
憲法学・政治学)

資料代500円



日本の平和憲法は9条二項が命。

首相の勝手な憲法解釈変更で「集団的自衛権」まで認めてしまうなら、憲法が死んでしまう。改めて憲法の意味の大切さをしっかり身につけ、力を合わせて守るために憲法の専門家をお招きしました。

あんな思いを子供たちにはさせない

<九条の会・流山 学習会>が3月29日(土)に開かれ、平和語り部の会会長の谷澤晃さんと戦艦武蔵の生き残り中島茂さんのお話を伺いました。

谷澤さん 大正10年生まれ。S16年に徴兵。17年10月に南方へ派兵され、ニューブリテン島へ。翌年ガダルカナルから来た兵たちを見て驚いた。上半身裸で着るものもなく下半身は米の麻袋に荒縄という姿、もうそのときからこの戦争は勝てないなと思った。ニューギニアで輜重兵(輸送)として働いていたが、この土地はぬかるみで車は役に立たない。毎日のように爆撃が始まり、絨毯爆撃のあと重症の兵たちの「殺してくれー！」という声が響く。海岸のほうにぬかるまずに歩きやすいが敵に目立つためジャングルを夜行軍して移動。寝ている間によく靴や飯盒などが盗られる。隊長から探して来いなどと命じられれば他の兵隊のものを盗むのだ。疲れ切って行軍する中で泥にまみれた戦友の死体がそろ

そろと並ぶ。一度数え始めたが40、50となってもう止めた。死んだ人ばかりか生きた人にもハエがたかる。戦争は惨めだ。人間が紙くずのように捨てられていく。

生き残った自分も戦死した人の家族からなんとなく冷たい目で見られているような気がする。

中島さん 13年6月に志願兵として海軍へ。トラック島での潜水母艦などを経て戦艦武蔵の乗組員となった。部隊の輸送などにも当たってきた。19年10月にはじまった作戦で6波にわたる空襲や魚雷攻撃を受け、主砲の45cm砲の制御系統が壊されたのをはじめ武蔵はのべ160機に及び集中攻撃を受け沈没した。燃料の重油を満タンにした直後だったので流れ出た重油が層を成す海を漂流し、夜中に駆逐艦に助けられた。2339人の乗員のうち助かったのは1329人。その後輸送される船がまた撃沈されたため、また15時間も漂流してやっと生還した。



全長 263mの巨大戦艦武蔵

陸軍は現地調達などといって、食糧が支給されなかったりしたが、海軍はそういうことはなかった。しかし軍人精神注入棒と称してオールが折れたものなどで毎日叩かれた。戦争は二度としてはいけない。

会には遺族会の方も来てくださり、現地の様子や慰霊の旅で号泣される皆さんのことなど話され、「自分の子どもは絶対に戦争には行かせない」と声を詰まらせながら訴えられました。

いただいた参加者の感想

◆初石公民館で平和語り部の会会長谷澤晃氏の講演。ニューギニアまで送られた日本軍の戦争の悲惨をありのままに聞くことができ改めて戦争のむなしさを思いたくさんお命が悲惨に失われていったことが悲しみより怒りとなって胸をさしました。また海軍の戦艦武蔵の乗員として南洋の海戦に参加し、艦の沈没の中で九死に一生を得て生還された体験を中島氏よりお聞きして、あの戦争は何だったのかと改めて深く考えさせられています。

私は90歳の老女で6,7歳のころから日本が中国とそこで小さな戦争を仕掛けていた記憶があります。私が小学校2年生の時、上海事変という小戦争がありまして、その時特攻隊として爆弾を抱えて敵陣への通路を切り開いた勇士を肉弾三勇士としてほめたたえ、歌が出来、巷で流行し、女の子の私たちがさえ、お手玉遊び、毬つき歌などに日常に歌って遊んでいたのでもうスラスラ歌えるほどです。水師營の会見とか広瀬中佐の歌とか生活の一部になっていました。

大正7年生れの私の夫の中学の同級生は1/3が戦死されていますし日本の国が明治時代に欧米に見做ってどこかで道を誤ったように考えられます。過ぎたことを悔やんでも取り返しはできませんが、これからの日本はゆくべき道を考え、戦争をしないことを肝に銘じて平和を守るための戦いに殉じ、貧しくとも不便でも耐えられる強さの国であってほしいと思いました。

◆本や新聞で凄惨な戦争体験を読むのと生の声でそのままでの喋りを聞くのとではここにズシッと来るものが違う。もう後2、3年で話してくれる人もいなくなるだろうから早くこんどは朝鮮・シベリア・中国の体験を聞く機会を作ってくれ、オレは、徒党を組んで争うことがイヤでキライなんだ。

◆ご遺族井田さんの決意が「もし息子が召集されたら息子の腕を切り落とす。役に立たなければ連れて行かないでしょう」すごい。九条守るしかない。

北朝鮮がノドンを発射？

2年前のあの騒ぎは何だったのか

2年前2012年4月「北朝鮮からミサイルが飛んでくる。日本に向かっていたら打ち落とす」と危機感を煽っていた防衛省。今回発射から公表まで2時間45分かかっているという。

今こそ戦争への流れを止めよう！

田中優子さんに学ぶ
憲法と江戸学

4月19日(土)

開場14:00 開演14:30

船橋市民文化ホール

入場料500円

JR船橋駅南口 徒歩7分

京成船橋駅 徒歩5分

主催：九条の会・ちばけん &

九条の会・千葉県地方議員ネットワーク

チケットは九条の会・流山へ



まるで対応が違う。「分析に時間がかかった」などと言うが、当時の政府の言い方をすれば、もうとっくの昔に「日本のどこかに落ちて甚大な被害を被る」はずなのに、このクールさと当時あっていた危機感とのギャップはなんだ。

ウクライナの事態から何を学ぶのか

ロシアはウクライナの一部をロシアに併合することを決めた。まさか？21世紀の今日こんなことがまかり通るとは。こんなことが許されるなら、あちこちで少数民族の独立運動や、それを口実にした大国による国家の切り取り併合などが多発しかねない。

ロシアはかつてツァーリと呼ばれた皇帝の下で大国化が進められた。その際どうしても欲しかったのが貿易や軍港として常時使える「不凍港」だった。北極圏のロシアの港は冬になると凍って使用不能になる。そこで東にウラジオストック、西にバルト海、南に黒海などを支配下に置こうと争い、ナイチンゲールで有名なクリミア戦争などを戦った。

一方でウクライナの地は肥沃でロシアの穀倉地帯とも言われる。また鉱物資源にも恵まれた重化学工業の盛んな国である。しかしエネルギー資源に乏しくロシアからの天然ガスの供給を受けている立場にもある。クリミアはフルシチョフ時代に戦略的な観点でロシアからウクライナに移されたという。

そうした複雑な支配、分轄、占領などの歴史をもつ地域に対してどちらが正当かなど単純な評価をすることは出来ない。また単純に住民投票の多数でことが解決するものでもない。しかし武力やそのほかの脅迫によってことを決しようとするれば必ずくすぶり続ける怨念がいずれ吹き上げて悲劇を生む。日本の憲法九条の立場がここでも大切ではなからうか。

武器輸出 禁止の三原則から促進に大転換

政府は従来の「武器輸出三原則」の見直しを図っている。これまでの武器輸出三原則は禁止に重点が置かれていた。しかし安倍内閣は「見直し」というより、促進に大転換。その例外を定めただけのものになりそうだ。原発でも武器でも何でも売ってやろうという姿勢が露骨だ。

4月9日(水)の定例駅宣

4月はいつもの9日(水)「おたかの森駅」
15:30~16:30です

~~~~~  
カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130-5-464735 口座名 九条の会流山